

阿蘇山

概 況

中岳第一火口の表面的な熱活動は、やや活発な状態が続いています。

5 月の中岳第一火口は、全面湯だまり状態が続いており、南側火口壁下の赤熱現象も引き続き観測しています。また、南側火口壁の温度も 13 日に 396 を観測するなど高い状態が続いています。

地震・微動の発生状況は、比較的静かな状態でした。

噴煙活動にも、大きな変化はありませんでした。

噴煙活動の状況

噴煙は月を通して白色・少量で、噴煙の最高高度は 500m 以下でした(図 1、図 6)。

地震活動の状況

期間中、火山性連続微動はありませんでした。また、孤立型微動及び地震も少ない状況でした。

5 月には孤立型微動を 14 回(4 月 1, 138 回)観測し、最大の振幅は 9 日 0.88mkine(4 月 2.0mkine)でした(図 2、図 7、図 8)。また、A 型地震の発生回数は 24 回(4 月 33 回、図 3、図 9、図 10)で主に中岳第 1 火口の東側で発生しました(図 15)。B 型地震の発生回数は 67 回(4 月 81 回、図 4、図 11、図 12)でした。

地殻変動活動の状況

G P S による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の 3 つの基線長に変化は見られませんでした(図 16)。

現地観測の状況

火口底は全面湯だまりの状態が続いています。

5 月 2 日には、火口底中央部に弱い噴湯現象とそれに伴う「にごり」を観測しました(図 17)が、その後は変化ありませんでした。

南側火口壁の赤熱現象は 5 月も引き続き観測しています。

南側火口壁の温度は、5 月 27 日の観測を除き依然 300 以上と高い状態を保っており(図 5、図 13) 13 日の観測で 396 を観測しました(図 18)。

湯だまりの最高温度は、先月に引き続き大きな変化はなく、最高は 13 日の 57 (4 月 58)でした(図 13)。噴煙は白色で青白色ガスも観測しました。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

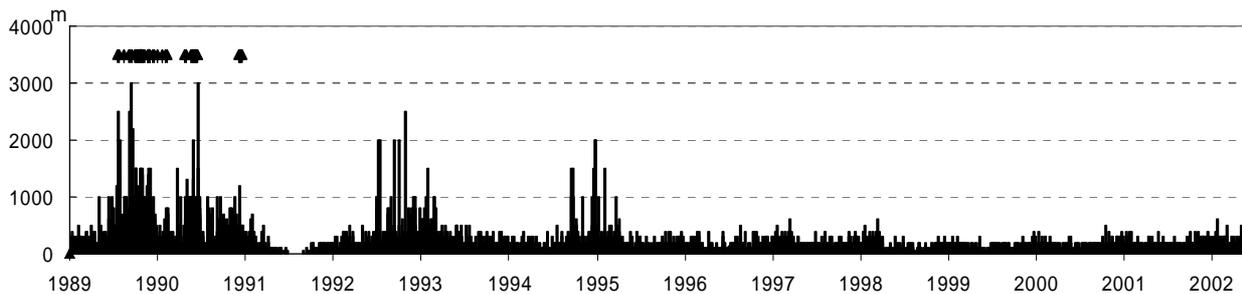


図1 日別最高噴煙高度及び噴火日(1989年1月～2002年5月)

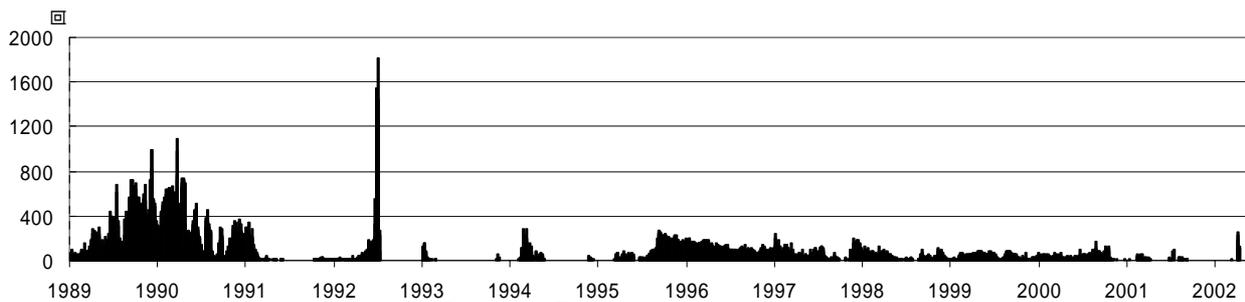


図2 孤立型微動日別回数(1989年1月～2002年5月)

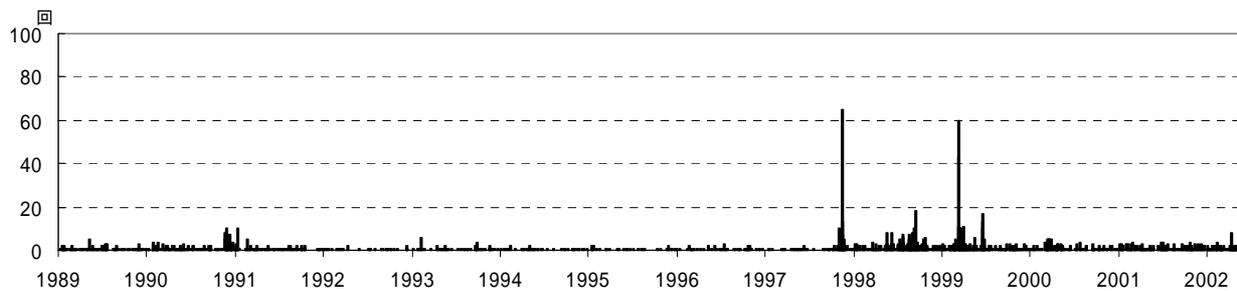


図3 A型地震日別地震回数(1989年1月～2002年5月)

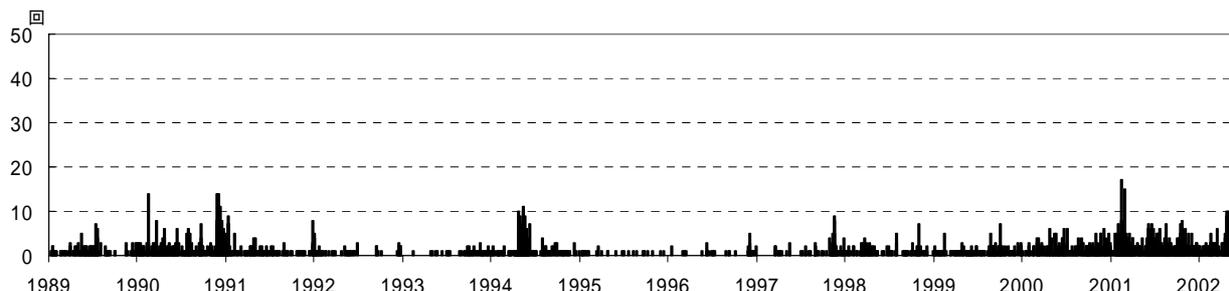


図4 B型地震日別回数(1989年1月～2002年5月)

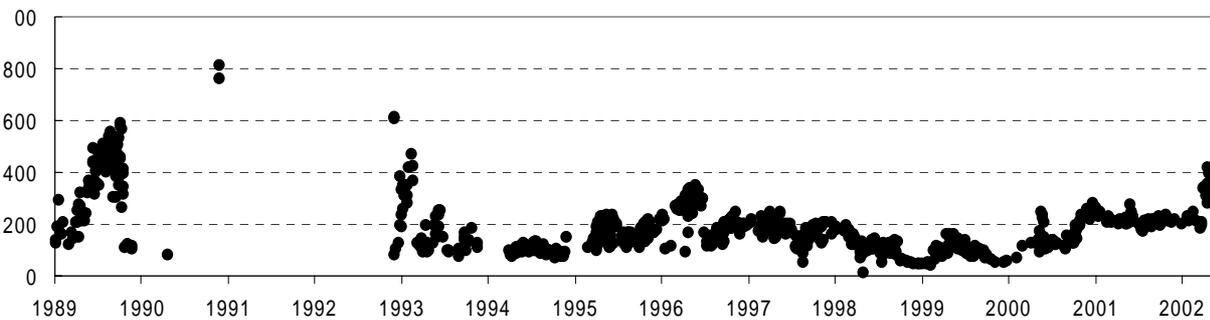


図5 火口底(壁)温度(1989年1月～2002年5月)

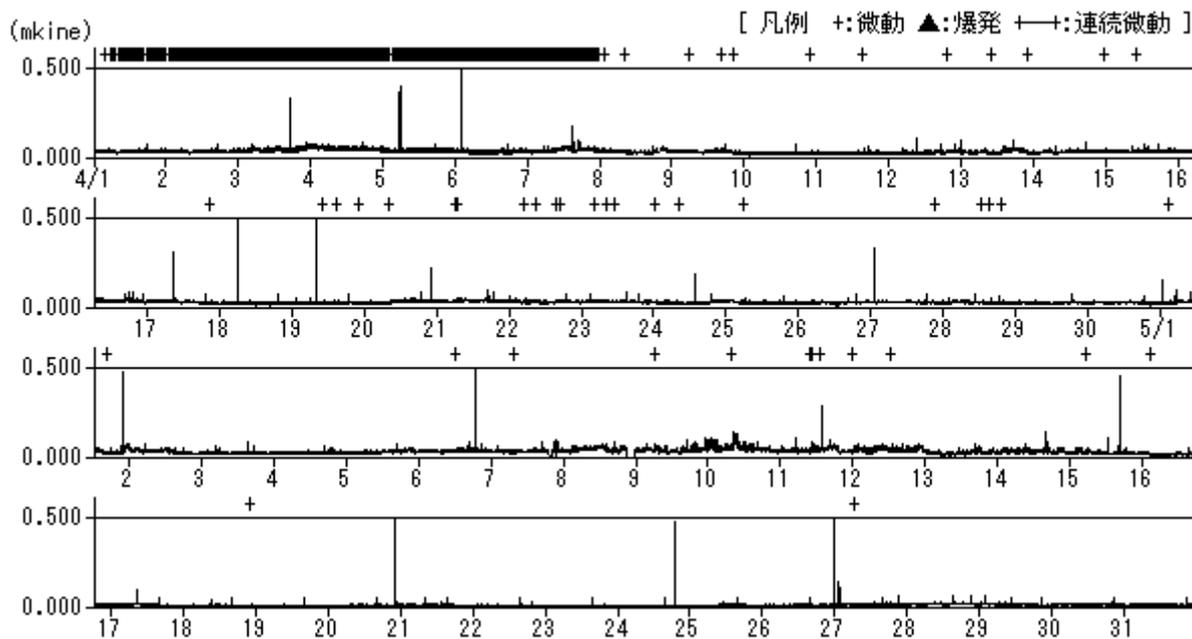


図 14 地震計 1 分間平均振幅の時間変化 (A 点南北動) (2002 年 4 月 1 日 ~ 5 月 31 日)

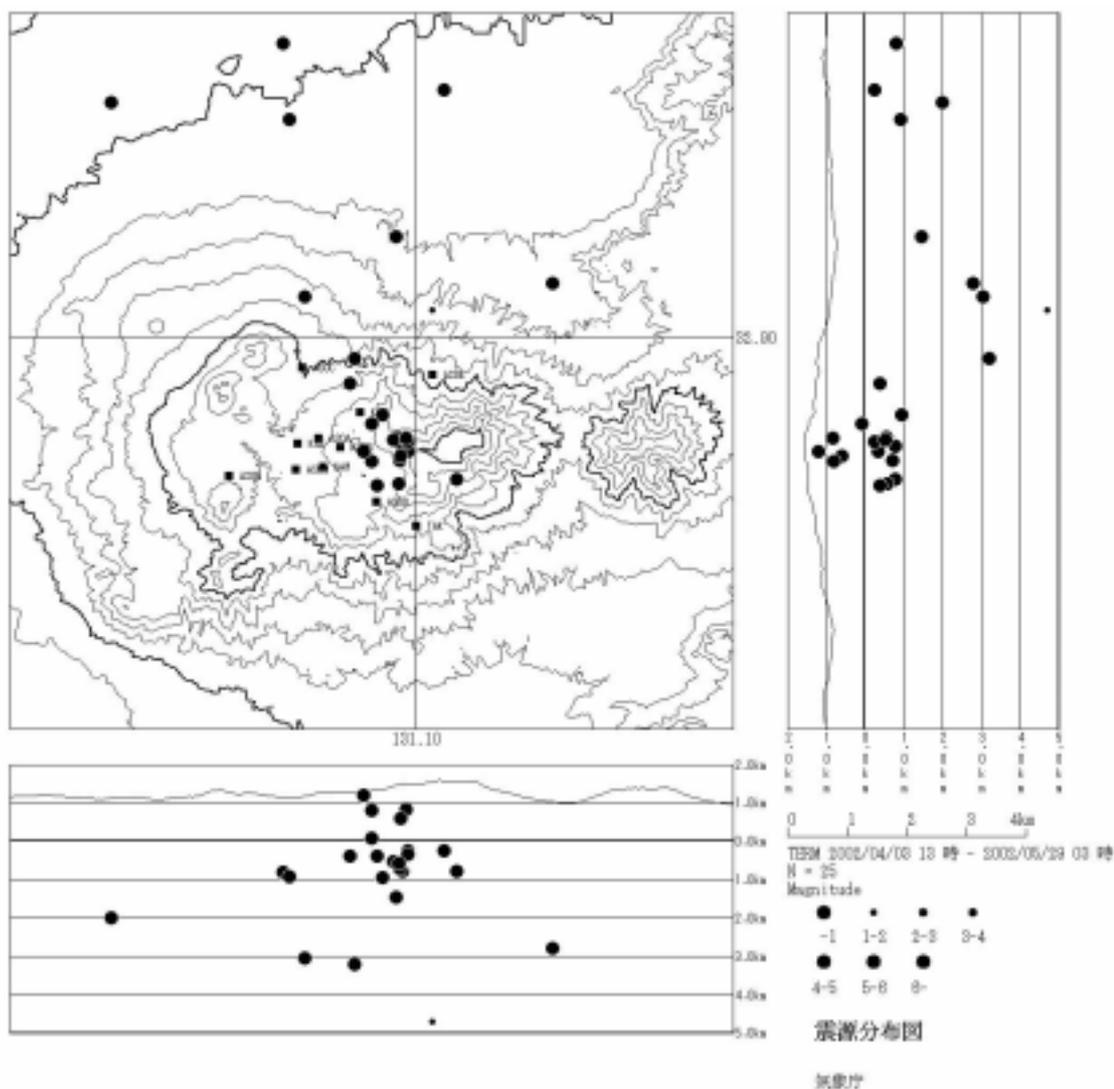


図 15 震源分布図 (2002 年 4 月 1 日 ~ 2002 年 5 月 31 日)
 (気象庁及び京都大学地球熱学研究施設阿蘇火山研究センターのデータを使用)

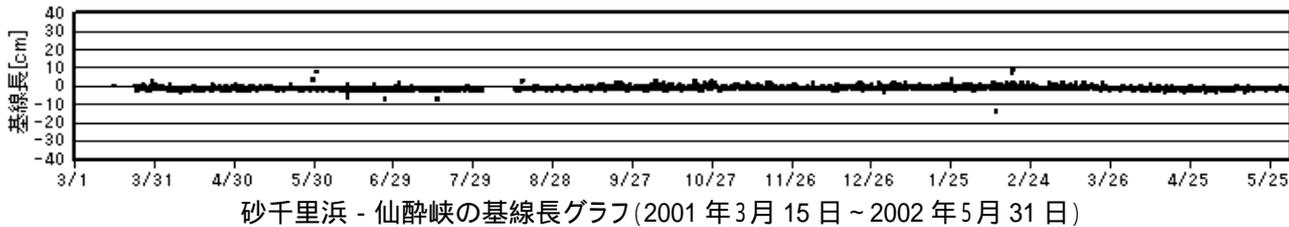
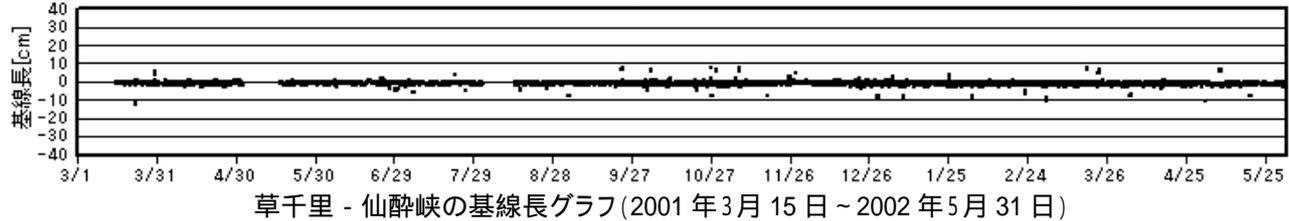
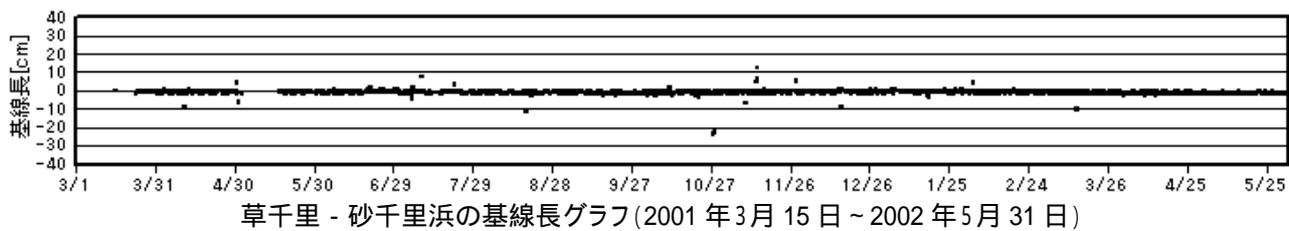


図 16 GPS による基線長グラフ



図 17 5月2日の火口底の状況

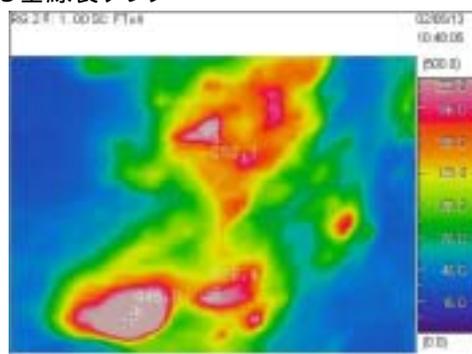
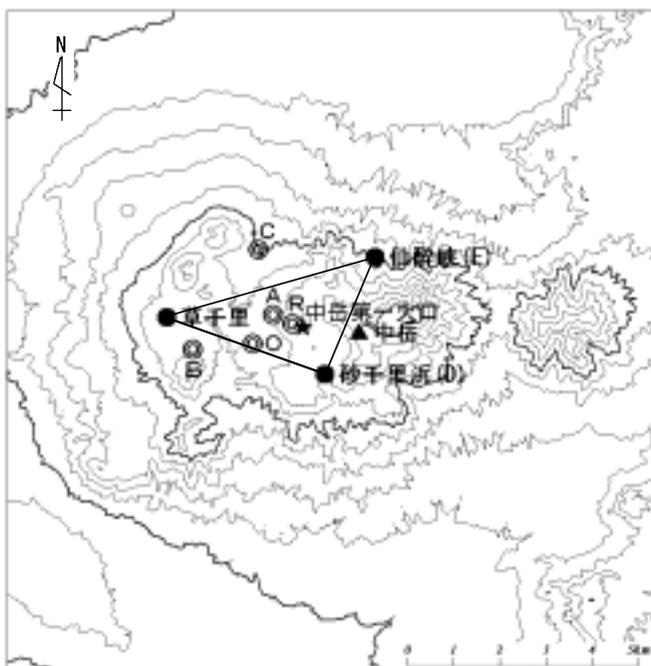


図 18 5月13日の火口壁の熱赤外映像
(測定方法の違いにより赤外線放射温度計よりも高い温度がでます)



- 気象庁観測点
- 遠望カメラ1点(草千里)
 - 地震計6点(A～E, O)
 - 空振計3点(E, O, R)
 - 傾斜計1点(O)
 - GPS 3点()

図 19 観測点配置図